



子どもたち先生方の笑顔のために

共に歩まん

壁面に掲示してご活用ください

令和5年2月6日発行

第23号

中信教育事務所

ご意見はこちら→



←過去の「共に歩まん」はこちら

シリーズ「キラリ☆先生方の実践」

【総合的な学習の時間編】塩尻市立片丘小学校 石巻 惣之介先生

第6学年 単元名「どろだんごプロジェクト」

石巻先生のキラリ☆

塗った漆喰^{しっくい}を磨くときのコツ、ふさわしい道具など、子供たちが感じるであろう学習対象の魅力を、教師自身が体を通して味わいました。丹念に教材研究をすることで、子供の喜びやつまづきを共感的に感じられるようになります。



キラリ☆から生まれた子供の姿



ピカピカのどろだんごを目指して漆喰を磨くAくん。手つきはまるで職人のようです。しかし、この日は光るどころか形も整いません。Aくんの表情がだんだん曇っていきます。

そのことに気付きながらも、見守っていた石巻先生。しばらくして口の形が違う瓶を渡しました。その効果は段違い！Aくんのどろだんごはみるみる丸みを帯び、光り始めます。手応えを感じたAくんは、更に磨きに没頭していきました。



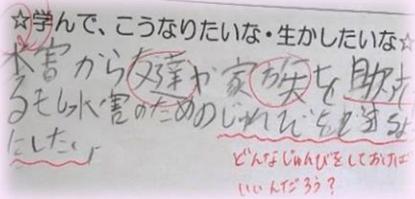
【社会科編】松本市立旭町小学校 谷本 藍子先生

第4学年 単元名「自然災害から人々を守る活動」

谷本先生のキラリ☆

キラリ☆から生まれた子供の姿

①単元の導入場面で、「自分が何のためにこの単元を学ぶのか」を学習カードで明確にする場を設けました。



②過去に地域で起きた水害の映像を視聴する場を設け、災害を身近に感じてほしいと願いましたが、他人事のように視聴する姿が見られました。そこで、評価を授業改善に生かし、再度「災害と私たちの生活」に着目して映像を視聴する場を設けました。

子供の生活と単元の学びが重なり合うことで、主体的に学ぶ子供の姿が増え、「いつ逃げるのか」「何を持って逃げるのか」など追究の視点が具体的になりました。また、学んだことを生活に生かそうとする姿が見られました。

他にも、「トイレが使えなくなる」「家そのものが使えなくなる」等、当たり前前に送っている普段の生活ができなくなることに気づき、水害による生活の変化を具体的な言葉で表現する姿が見られました。

